

追憶

武元文平市長 合併からの8年を振り返る

市長という重責を担ってきた率直な感想は？

8年間、いろいろなことがあり、本当に変動があつた8年間だったと思います。合併した当初は、大変厳しい財政状況や人口減少の中で、いかに七尾市を元気づけていかなければならないのか、市長として全力を尽くしてきました。

振り返ると、自分の思ったとおりにできなかったこともありましたが、そして、もつとあれやこれやと、やってあげばよかったのかなという思いはありますね。

平成の大合併や能登半島地震などがありましたが大変だったことは？

合 併した当時、1市3町がそれぞれに歩いてきた歴史や地域の違いなどがあり、それを一つにまとめるということは大変なことでした。今度は新しい歴史を作っていかなければなりませんので、全市民で盛り上げていくという一体感を作ることが課題でした。特に旧3町の皆さんに目配りや気配りをしなければならぬと思つて取り組んできました。

また、合併した後、財政が非常に厳しい中で、平成19年には能登半島地震がありました。これまでに経験したことがない大惨事でした。

そして、各地区の被害状況も違つていました。また、被災した方々への対応や復旧復興など、市民の皆さんが一日でも早く、安全安心な生活ができるように、全力を尽くしてきました。このとき、市役所職員には、昼夜を問わずの勤務や、休日勤務などをしてもらいました。

市民の皆さんと市役所職員のがんばりがあつたからこそ、大きな災害を通じて、より一層の一体感が築かれたのだと思います。

新市になって、特に力を入れてきたことは？

合 併した当初、一番には財政改革を優先する必要がありました。また、人口が減っていく中、雇用の問題、地域産業の衰退などもあり、働く場所の問題や地域経済力を高めることも課題でした。

そういった課題を打開するために、総合計画を作成し、将来像として「人が輝く交流体感都市」というスローガンを掲げました。

このスローガンを達成するには、観光振興に力を注ぐ必要がありました。七尾市には素晴らしい観光資源があります。これを活かした施策に取り組み、いかに人を呼び込むかということを実践してきました。

市外から人が集まるということで、地域の中でモノや金が循環する仕組み

を作る必要がありました。まだまだ十分ではありませんが、和倉温泉のまちづくり整備を行ったことも一つです。また、サッカーグラウンドを整備したこと、若い人たちが来てくれるようになり、活気が生まれました。今後とも今以上に力を注がなければならぬと思います。

世界農業遺産に認定されたことも、地域の暮らしや営みが評価され、私たちも素晴らしいところで生活をしているのだと気づかせてもらいました。これからは、認定されたことを相乗効果的に活かす必要がありますね。

うれしかったことは？

う れしかったことはたくさんありますね。

震災による復旧復興を通じて、自主防災組織が立ち上がりました。また、地域で高齢者が増える中で、地域の人がお互いに助け合つて、声かけや見回りなどをして確認をするなど、互助の取り組みも広がりました。地域を守ることは、そこに住む人たちがやらなければならないという意識が生まれ、解決をしていく。そして、解決できないことは行政へ要望していくという流れができたと思います。

これは、地域が自立してきたことでもあり、七尾市が自立したことでもあります。これもうれしかったことの一つです。

そして、無名塾の皆さんによるマクベスのロングラン公演もありました。このときには、果たして能登演劇堂で50日間の公演をして、3万人のお客様を呼ぶことができるのかと本当に心配したことを思い出します。

しかし、このときも市民の皆さんの協力で、大成功を収めることができました。チケットも、キャンセル待ちがあつたほどの人気で、全国のメディアからも報道されました。七尾市のPRやボランティアをした市民なども取り上げてもらい、市民自身も、七尾市は誇れるまち、自慢できるまちだと思つていただけたと思います。

まだまだうれしかったことがあるのですが、最後にもう一つ。「市民のねがい ―七尾市民憲章―」ですね。これは、市民の皆さんに手作りで作っていただいたことですね。七尾市の市民憲章は、市民がどんなまちづくりをしていくのか、そのためには市民一人一人がどのような役割を担っていかなければならないのかということ、みんなで考えて作り上げた市民憲章です。市民憲章に記されていることを実現していくために、これからも「おとなも子どもも手をつなぎ、しあわせの和を広げよう」というように歩んでほしいと思います。素晴らしいものができ、本当にうれしいですね。本当にすごいものができました。(市長 涙ぐむ)

武元市政の最初と今とは どう変わったか？

最初は、市町合併して、市民の意識が違っていました。また、市役所職員の意識も違っていました。そのほかにもいろいろな違いがあつたと思いますが、市民の皆さんには、この8年でもいい七尾市になつたと感じてもらえているのではないかと思います。

合併した1市3町は共通しているところがたくさんあります。海や山、田んぼや川など、素晴らしい自然があります。また、素晴らしい文化や歴史、伝統や祭りなどもあります。各地域の違いもありますが、すべてが素晴らしいものです。ここだけを見ても、合併してよかつたと思いますし、市民の皆さんが地域のいいところを伸ばしていこう、そして自分たちで守っていこうという意識が、合併前より強くなつたことを感じます。

特に、各地域でのまちづくりを考えると、もうために、地域づくり協議会ができました。それから、市民の皆さんから提案をいただいた事業に予算をつけて実施をしていただくことも始めました。市民の皆さんは、提案型のまちづくり事業を有効に活用していただいていると思います。

一方では、この8年間で市役所職員は約230人を減らし、財政状況がよくなったことで、市民の皆さんが提案していただく事業に予算をつけること

ができました。

これは、市民と行政の役割が明確になり、これまでの市や町の時代と違つた関係が築けたのではないかと思います。「七尾市まちづくり基本条例」が9月から施行され、市民が主役のまちづくりを実践していくことも変わったことの一つですね。

市民の皆様へ

8年間、本当にお世話になりました。なんとか、任期をまっとうさせていただきました。いろいろと足りない点などがあつたと思いますが、

新しい市長や市役所職員の皆さんにがんばっていただければと思います。

市民の皆さんには、七尾市の素晴らしいところを自慢して、愛着を持ってもらい、全国や世界に元氣のある七尾市を発信してほしいですね。

七尾市には、本当に多彩な方々がいいます。お互いに、前向きな議論をしながら、次の新しい時代に向かつて、取り組みや活動をしていただけたらと思います。子どもや孫に七尾市は素晴らしいところだということを伝えてほしいですね。

長い間、本当にありがとうございました。

